

ICT を活用した学習場面

B3 思考を深める学習 B5 家庭学習

外国語活動

4年2組 廣瀬 惇治

単元名 What do you want? 理想のお弁当を考えて、お家の人にリクエストしよう (2/4)

本時のねらい: 理想のお弁当のおかずについて、教師とALTのやり取りや教師と数名の児童のやり取りを何度も聞いたり繰り返し発話したり、おかずの名前を確認し合うことの意味について考えたりすることを通して、聞き取りやすい声の大きさや速さで、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

評価規準: 理想のお弁当のおかずについて、聞き取りやすい声の大きさや速さで、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。【思考・判断・表現】

指導の流れ

児童の活動 (ICT 活用の様子)・ICT 活用のねらいや留意点

1. 「理想のお弁当」を考えるために、おすすめのお弁当のおかずを友達と交換する」という学習の目的を事前指導で確認する
2. 2～5つのおかずの写真を、お家の人と相談して撮影する。
3. ロイロノートに、撮ったおかずの写真を貼り付ける。



・ロイロノートを活用してやりとりをすることで、何枚でも交換することができたり、写真でリアル感が伝わったりし、楽しく意欲的に発話したり聞くことができる。また、イラストカードよりも見た目が分かりにくいおかずもあるため、「What this?」と聞く必然性も生まれる。



ICT 活用の効果 (困りが解決されたか)

成果: **必然性** 理想のお弁当を考えるために、本当の写真を見合いながら「What this?」や「It's ○○」を伝え合う必然性が生まれた。

リアル感 イラストカードでなく、本当のおかずの写真を見せ合うこと、またその写真のおかずを本当に自分のお弁当に入れてもらえるかもしれないというリアル感が生まれた。

楽しさ コロナ禍で、友達のお弁当を見ることがない中で、友達が普段どのようなおかずを食べているのか知ったり、食べたことがないおかずを知ったりすることができた。

相手意識 友だちが自分のおかずを「ほしい」と思うようにおいしさを伝えたり見せ方を工夫したりして伝えることができた。

課題: ・タブレットの操作に集中してしまい「eye contact」の意識が薄くなる。

・「I want ~.」を言わなくても写真を指差すだけで解決してしまうため、発話する必要がなくなってしまう。